

1. ビジョンの趣旨、改定内容

本町では安全で安心な水道水の安定供給を継続的に行うため、課題や方向性を示す指針として平成27（2015）年3月に「志免町水道事業ビジョン」を策定しました。

この度、10年が経過し、全国的に大規模な災害が頻発するとともに、人口増加が鈍化傾向になり有収水量も横ばいとなる等の背景を踏まえ、国や福岡県のビジョン、町の第6次総合計画など各種の計画と整合性を図りながら、「志免町水道事業ビジョン」を改定しました。

主な内容

- 現状評価に基づいた課題の整理
- 施策体系全般の見直し
- 全体的に簡潔でわかりやすい内容への見直し



2. ビジョンの計画期間

令和7（2025）年度～令和16（2034）年度

3. 水道事業における課題

「安全」「強靱」「持続」の3つの視点で整理しました。

- 「安全」の主な課題：気候変動に伴う水源の水質・水量の変化や水量減少などへの対応、PFOS及びPFOA等の化学物質やカビ臭物質に対する管理体制及び監視の強化などが挙げられます。
- 「強靱」の主な課題：現状では著しく老朽化した浄水施設、配水池及び設備はありませんが、計画的に更新する必要があります。大規模災害を機に耐震基準が改正されたため、建設当時は基準を満たしていた一部の施設が、現在の基準を満たさなくなっています。
- 「持続」の主な課題：多額の費用を要する水道施設の老朽化対策及び耐震化を進めるための財源の確保が課題となります。

視点	カテゴリ	主要課題
安全	水源および水質	水源が乏しく、既存水源の有効活用と新規水源の確保が必要である。
		夏期に調整池でカビ臭の原因となる藻類が増殖する。
強靱	水道施設の老朽化	今後は老朽化施設（構造物や設備）が増加する。
		管路の老朽化が進行し、漏水の増加などが懸念される。
	水道施設の耐震化	一部の配水施設に耐震性がなく、耐震対策が必要である。 管路の耐震化率が低く、今後も耐震化を進めていく必要がある。
持続	災害リスクと危機管理	地震、浸水、土砂崩れなど自然災害のリスクがある。
		「クリプトスポリジウム等対策マニュアル」を含む他の危機管理マニュアルを整備する必要がある。 テロ対策、サイバーセキュリティ対策の更なる強化が必要である。
持続	経営・財政	施設の老朽化対策や耐震対策に多額の費用を要するが、料金収入の増加が見込めず必要な対策が実施できないまたは大幅に遅れるおそれがある。
		老朽化に伴い、効率性が悪化するおそれがある。
		遊休化した水道用地がある。
持続	組織・人材	限られた職員数で幅広い業務に対応する必要があり、技術の継承や人材育成が困難である。
		広報・PR

4. 基本理念とスローガン

水道事業が抱える課題、今後取り組むべき方針等に基づき、基本理念やスローガンを定め、課題に取り組むための施策を策定しました。

基本理念

- S**afety&Strong：安全で安心して飲める水道、災害に強い水道
- H**igh Quality：高品質な水道
- I**nformation：情報を発信する水道
- M**anagement：安定した経営の水道、管理が行き届いた水道
- E**cology：環境に優しい水道

スローガン

将来へめぐりあう水道

- 安全：みんなが飲みたい志免の水
- 強靱：災害に負けない志免の水
- 持続：次世代につなげる志免の水



5. 施策

- **資源水量の確保**
 - 取水量増加への対応として今後も新規水源の確保に努めます。
- **水源汚染リスクの軽減**
 - 水安全計画の適切な運用により、なお一層安全な水を供給し続けられるよう努めます。
- **水道施設の老朽化対策**
 - 計画的な維持管理の実施により、施設の長寿命化を図ります。
 - 維持管理計画や更新計画は、設備台帳と一体で管理し、アセットマネジメントの継続的な実践や「知の継承」に役立てます。
- **水道施設の耐震対策**
 - 老朽化の状況や施設の重要性などから優先度を判断し、更新時期に合わせて耐震性のある施設に更新していきます。
 - 重要給水施設等への管路ルートを選定し、効果的に管路の耐震化を進めていきます。

● 危機対応能力の充実

- 災害時対策の実効性を高めることを目的に、委託業者等と防災訓練を実施します。
- 応急給水拠点や応急給水体制、各家庭での飲料水の備蓄の重要性などを広報活動を通じて周知していきます。
- 水道水の安全性を高めるため、耐用年数を経過した機器の更新や防犯カメラの設置台数を追加する等、更なる対策強化に取組みます。
- クリプトスポリジウム等対策マニュアルなどを策定し、きめ細かな対応ができるよう努めます。

● 安定経営の持続

- 財政収支を踏まえた持続可能な整備計画の策定を進めます。
- 経営の効率化等による経費節減、必要な設備投資を反映した財政シミュレーションを基に、適正な水道料金を設定するよう努めます。
- 水道料金の仕組み等についても理解される工夫をしていきます。

● 経営の効率化

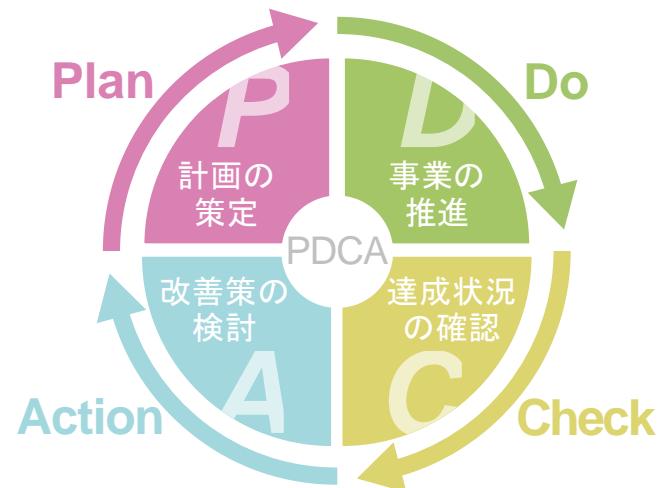
- 広域化については、議論が行われる場に参加するものとし、ソフト連携等についてその実現可能性の検討を行います。
- 今後は委託業務に関する適切な知識と判断力やマネジメント力を高めることを目指します。
- 水道施設の廃止により水道用地が遊休化しているため、その利活用について検討します。

● 職員の技術力・組織力の強化

- 適切な人員を確保し事業継続のために必要な職員の技術力、組織力の強化に努めます。
- 町民の皆さまとの信頼関係を深め、双方向のコミュニケーションを実現するよう努めます。

6. フォローアップ

事業途中において本ビジョンを見直す際には、計画の策定（Plan）～事業の推進（Do）～達成状況の確認（Check）～改善策の検討（Action）の連鎖である「PDCAサイクル」を実施し、取組みの方向性の確認、重点的な方策等の追加や見直し等について検討し、関係者の意見を聴取しつつ更なる推進や見直しを進めていきます。



7. 水道事業の施策体系とロードマップ

